

令和5年度地域説明会での意見に対する市の考え方

項目	No.	意見等の抜粋	市の考え方	修正
熱塩小と加納小の早期統合について	1	熱塩小PTA会長から、子どもの数が減っており、もう少し早く統合できないかという話があった。保護者のそのような意見を尊重して欲しい。(意見)	説明会では、熱塩小と加納小の統合時期をできるだけ早くして欲しいという意見が多くありました。また、熱塩加納地区の小中学校及びびこども園では、PTAによるアンケート調査が実施され、熱塩加納地区PTA連絡協議会(会北中PTA、熱塩小PTA、加納小PTA、すぎっこども園保護者会)として、「令和6年度から熱塩小学校と加納小学校の統合を実施すること」について、市議会に対する請願書や市教育委員会への要望書が提出されるなど、保護者の意見のとりまとめが行われています。	あり
	2	熱塩小、加納小、すぎっこども園、ひめさゆりこども園の保護者にアンケートを行ったところ、早めに統合して欲しいという意見が多数あった。それらのPTA役員で相談し、熱塩加納に小学校を1つにして欲しいという内容の要請書を教育委員会に提出した。佐原議員に紹介議員になってもらい議会に請願も提出した。	この子ども達の教育に深くかかわる保護者の意向に応えるべく、可能な限りの統合時期の前倒しをする必要があると考えます。また、新たな小学校の場所は、早期の統合を実現するため、現時点においては現在の加納小学校とすることが適切であると考えます。	
	3	熱塩小と加納小の統合で、学校をどこにするのか決まっていないとのことだが、会北中を使用する場合、階段には手摺を付ける、プールの問題、熊の対応のため柵の設置等の改修も必要である。できるだけ早く統合をするためにも、会北中を使用する案はなくしてほしい。		
	4	一小的分散進学の解消と並行し、熱塩小と加納小の統合を進めてほしい。分散進学解消について、令和6年度には特に手間がかかる作業はないと思う。		
	5	適正規模適正配置の議論がはじまってもう10年も経っている。もっと、危機感をもってやってもらいたい。		
	6	出来れば早く令和6年度からでもやって欲しい。親としての危機感や責任感がある。		
	7	保護者アンケートの集計では、小学校の統合場所は加納小でよいのではないかという意見が多かった。この場で伝えておく。		
	8	7年前もこのような会がありいろいろ意見があった。いつまで検討し、結論を出すかが見えないので、二中に行ってしまうような状況も出てくる。いつからとすることを具体的にしてもらえとよい。		
	9	私を含め早く統合して欲しいと思っている人達は、その殆どが統合しないですむならその方がよいと思っているが、人数が少なくなってきたので苦渋の決断としてのものである。		
10	反対の意見の人もいると思うが、そういった思いを分かかって欲しい。本当だったら会北中にも通わせたい。			
第二中学校と会北中学校の統合について		このタイムスケジュールだと、会北中でなく、会津若松市の中学校に進学する場合も考えられる。第二中学校と会北中学校の統合が、少し先なので、会北中学校に進学しても、計画が決まれば、第二中に進学したいという保護者が出てくると考える。そうすると、会北中の教育環境が悪化するのではないか。第二中学校と会北中の統合、熱塩小と加納小の統合スケジュールが一緒だと子どものためになり、個人的には良いと思う。令和6年度からでもよいので、早めに統合してほしい。	第二中学校と会北中学校の統合については、熱塩加納地区だけでなく第二中学校区との調整が必要となるため、一定の時間が必要となることから、第1次実施計画(案)のとおり令和8年度からの統合とすることが適当であると考えます。また、統合の前に第二中学校への通学を認めることについては、会北中の生徒数が急激に減少し、学校運営に支障を来すことが考えられることから、今後、保護者の意向を的確に把握したうえで教育委員会において慎重に検討していく考えです。	なし
	会北中と二中が統合するなら、最初から二中に通わせたいという保護者がいる。いずれ一緒にするのがあれば、住所を移さなくても行けるようにして欲しい。			
	資料9ページに「地域と学校との関わりへの配慮」と記載されている。二中と熱塩地区の環境は別物であると思う。統合しても、児童生徒が地域とふれあう時間を作って欲しいと思う。公民館事業などで、子どもと関われるようにして欲しい。		各学校において築き上げてきた特徴的な取組はできる限り継続し、地域のアイデンティティとして受け継がれるようにしていくことが重要です。また、学区が広がれば地域も広がると前向きに捉え、地域の宝をなくさない仕組みを作っていくことも重要であると考えます。	なし

項目	No.	意見等の抜粋	市の考え方	修正
より広域的な統合について	10	郡山市の湖南地区においては5つの小中学校が統合し、小中一貫教育学校を開校している。旧喜多方東高校へ熱塩小、加納小、山都小、高郷小をもっていくということもあり得るのか。	適正規模の基準では、小学校が「1学級あたり児童数17人以上、1学年の学級数2学級以上が望ましい」、中学校は「1学級あたり児童数17人以上、1学年の学級数3学級以上が望ましい」としており、規模のみを考えると、より広域的な統合が必要であると考えられます。	なし
	11	熱塩小、加納小が統合し、さらに再統合ということはないか。	保護者や地域住民の意向のなかには、通学への影響等を心配する声もあることから、第1次実施計画（案）においては、児童生徒の減少状況、複式学級の編制状況、保護者や地域住民の意向、施設の老朽化状況等を総合的に勘案しながら統合（案）を策定しており、適正規模の基準を満たさないものも含まれています。	
	12	熱塩小学校と加納小学校は、統合しても複式学級であり、長期的に見れば、松山小学校との統合などの考えはないか。	再度の統合についても、前述の四つの観点（児童生徒の減少状況、複式学級の編制状況、保護者や地域住民の意向、施設の老朽化状況等）により検討・判断していく考えです。	
	13	山都中と高郷中は統合しても28人である。その次の展開はどうなっているか。中学校で一番学ばなければならぬのは、友人関係と思う。高郷中には不登校がいたという話を聞いた。小さいコミュニティの中で不登校がいるということは、逃げ場がなかったり、新たな友人の中に入れなかったりしている窮屈な状況の子もいる。そのようなことから、個人的な意見であるが、喜多方と全部一緒の中学校という考え方はどうか。大きなコミュニティの中で学ぶことが大切であると思う。大人になっても悩むことは人間関係である。中学校段階で、そのようなことを学ぶのは大切である。小さいコミュニティで逃げ場がないというのは、子どもにとって、かわいそうだと思う。		
第一小学校の分散学解消について	14	小6と小3の子どもがいる。来年度、中学校に進学するが、三中に行った方がよいのか、二中に行った方がよいのか、小3の子どもがどうするのか、不安な面がある。	第一小学校の分散学解消については、令和7年度～令和9年度までの3年間の猶予期間を設けていますが、これは、在学中の兄弟姉妹が同じ学校（第三中学校）に通学できるようにするためです。	なし
	15	小6と小2に子供がいるが、小2はR10卒業なので、二中に行くようになる。小6の子供とばらばらの中学校に通学するようになるが、卒業しているのか、それはいいのかなとも思っているが、可能であれば希望して三中を選択することができないか。	ただし、説明会での意見にあるように3人以上の兄弟姉妹の場合は、3年間の猶予期間経過後に在学中の兄弟姉妹と違う第二中学校に進学となるケースが考えられることから、このようなケースでは、同じ学校（第三中学校）に通学することができるよう、今後、教育委員会において検討していく考えです。	
	16	一小に小6と小4、小3の3人が通学している。小6は三中で、小4と小3は二中ということになる。お下がりができると思っていたが、2番目からは、二中のものを買わなくてはいけないとも考えている。		
	17	他の人から、少人数でも適応できる子は三中に行っても、新しい友達が出ていいと聞いたことがある。確かに一小から二中に行くことと繋がっているが、多くのところに行くこと、固まってしまう子もいる。今は、三中学区のことではあるが、学校を選ぶことができるということもいいと思う。移行期間の設定のことを言ってしまうと、私の家族だけでなく、他の家族も同様にいると思うので、水掛け論になってしまう。学校の選択について考えていただけたらいいので、検討してほしいです。（意見）		

項目	No.	意見等の抜粋	市の考え方	修正
子どもの思い等について	18	<p>小学校と中学校に子供がいるが、今回具体的な統合の話が出てきたのはよかった。適正規模適正配置が始まって、会議に出ているが、「学校がなくなると、地域が廃れる、地域から学校をなくすな」などの意見が出される。統合賛成という悪者のようになってしまふ。実際に、子供に「友達が増えるかもしれないけど、どう思う」と聞くと、「いいんじゃない」と喜んでいて大人から見ると、学校をなくすということは、地域のためにならないと思うかもしれないが、子ども目線で考えていかないと、この問題は進んでいかないとと思う。少ない人数、決まったメンバーで学校生活を送った後に、高校に行き、大人数の中に入っていた時にどうなるのか、そこまで考えてあげないと、子供が可哀そうだ。</p> <p>統合するのであれば、統合のメリットを最大限に生かしてもらいたい。山都中は今年度生徒数が一気に20人減った。それに伴って、PTA活動、保護者の負担が増えている。会費も入ってこなくなると、予算をどうするかということも出てきている。今後、負担が増え続けるということ、大きな問題だと思う。部活の問題もある。山都中では人数が少ないので、選択するものがほとんどない状態である。やる気のある子は、頑張っているが、やらされている感を持っている子は部活にやる気を失ってしまっている。自分がやりたい部活を少しでも選べるような環境を作ってあげたいと思う。</p>	<p>義務教育段階の学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています。このため、学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要です。</p> <p>そうした教育を十全に行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいものと考えられることから、一定の学校規模を確保することが重要であると考えます。</p> <p>また、ご指摘のように統合のメリットを最大限に生かせるような工夫をしていくべきであると考えます。</p> <p>なお、子ども達の教育環境については、保護者を含めた関係者が子どもたちのことを思い、責任をもって考えていく必要があると考えます。</p>	なし
	19	<p>初めて出席した。子育て世代の家はこの時間での出席は厳しいかなと感じている。</p> <p>今回のことを子どもに聞いてみると、スポ少をやっていることもあるが、「○○ちゃんと一緒にいるんだ。うれしいな」と素直に喜んでいて。</p> <p>私自身は、中学校の統合を前向きに考えている。統合の際に同じ年代を持つ高郷地区の保護者の考え方はどうなのか知りたい。</p>		
	20	<p>小1とこども園年中の子どもを持っていて。年中は現在3名在園している。(男子2名、女子1名)先ほどから、「地域」ということを盛んに話題になっているが、実際子どもたちがどうしたいかということだと思ふ。</p> <p>家で「学校で何やってた」と聞くと、「同じことの繰り返しだ」、「だれと遊んだ」と言っても「同じ人としか遊べない」という答えが返ってくる。最近は、「つまらない」ということを言っている。</p> <p>中学校になると部活が始まる。自分も部活をやっていたが、部活は楽しかったし、いい思い出になっている。統合は流れに任せると思う。</p>		
	21	<p>適正配置に関わる子供たちは、果たして人数が少なくなるとよいかということにどのような意見が出ているのか非常に興味がある。</p>		

項目	No.	意見等の抜粋	市の考え方	修正
少人数・複式学級での教育について	22	<p>何ををもって適正配置としているのか。統合を必ずしなければならぬことを前提として議論しているようである。生徒の数が少なくてもデメリットがないのではないかと感じている。</p> <p>現在は、ＩＴも進んでいるので、必ずしも人数がいなければならぬわけではなく、吸収するのは、いろいろな機会があるので可能ではないかと思う。</p>	<p>学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、規範意識を身に付けさせることが重要であり、また、新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現のためにも、一定の規模の児童生徒集団を確保し、児童生徒にとってより良い教育環境を提供できるように取り組むことが必要です。</p> <p>また、児童生徒が一定規模であることにより、様々な大きさのグループによる学習活動等が可能となるなど教育活動面での効果、切磋琢磨による多様な価値観を醸成できるなどの人間関係面での効果があると考えます。</p> <p>近年はＩＣＴ環境の整備が進み、遠隔でもできる活動が増えています。児童生徒が対面により意思疎通を図ること、また、教師が児童生徒ひとりひとりの表情を見ながら授業を進めることが大切であると考えます。</p>	なし
	23	<p>現在はダブルスクールが主流である。複式学校でも、個人的に塾などに通えば学びの環境が確保、高校受験等に対応できるのではないか。</p>		
	24	<p>複式学級の解消が目的のようには見えな。複式学級にもそれなりの効果はあるのではないか。</p>		
	25	<p>教員の減少が問題となっている。統廃合ではなく、オンライン授業にすれば解消できるのではないか。</p>		
	26	<p>答弁が文科省の文言と同じである。メリット、デメリットは小規模校であれ、大規模校であれ同じようにある。そこから努力、工夫していくことが重要と考える。(意見)</p>		
	27	<p>一人でも通学したいと思う子がいる場合は学校を残してほしい。</p> <p>今後いろいろな懸念が出てくると思うので、適正規模適正配置の統廃合計画を白紙にしてほしい。その上で、地域に学校がなくなっても構わないということになれば、それは仕方がないことである。</p> <p>ただし、地域には、自然、文化、歴史があるので、そのような中で育っていった方が、義務教育まではよいと考える。このままでは、喜多方地区と塩川地区にしか学校はなくなってしまう。</p>		

項目	No.	意見等の抜粋	市の考え方	修正
地域の伝統文化について	28	<p>慶徳の子どもたちでお田植祭りなどをやってもらって中学生にも協力いただいた。今年あたりからは中学生にも協力いただいた。</p> <p>子どものことを一番に考えてもらっているのが、地域から学校がなくなれば、慶徳そのものがどうなるのかなという住民の考え方がある。中学校も幼稚園もなくなり、今度、小学校もなくなれば、若い人はだれも来なくなる。それが目に見えている感じがするので、小学生が歩いて通える距離で学校がある。生徒は学校でも学ぶけれども、地域の中でも伝統文化などを通して成長する。そういう教育方針で慶徳はやってきたと思う。そういうものがなくなると、過疎化がもっと激しくなるというのはいやめてほしい。</p> <p>基本的に考え方が違うと思うが、そういう気持ちで説明会にきたので、何とかしてほしいという気持ちである。</p>	<p>統合により学校は集約されますが、子どもはこれまで通り各地域に住み続けることになるため、各地域がそれぞれ学校と連携・協働していただきたいと考えます。</p> <p>これまでも、地域の方々と関わり、それぞれの地域文化や歴史を生かした学習活動などを行ってきており、統合後の学校においても、郷土学習や地域で培われてきた伝統や文化を継承する行事などを行うことが必要です。</p> <p>また、市町村合併後、各地域間の交流が盛んになり、様々な地域を知る、多様な人々との交流が増えるということも、合併の成果の一つと考えられます。このように学校の統合により、学区が広がることにより、子どもたちがそれぞれの地域に根づいた多様な文化に触れ、より一層の連携や協働となるよう取り組んでいくことも必要です。</p> <p>慶徳御田植祭りなど、地域と学校との結びつき（協働）により継承されてきた地域の宝を無くしてはならないと考えます。喜多方市民総ぐるみで、様々な地域の力を生かし、子ども達を育てる取組を進めていくべきであると考えると考えます。</p>	なし
	29	<p>具体的な子どもの姿が示されていない。「地域性」という言葉が出てくるが、山都の地域の中で育ててきた子ども、高郷の地域の中で育ててきた子どもを一纏にしてどのような子どもを育てるのか示してほしい。</p> <p>新しい学校をより適切なところに設置するというところになっているが、山都地区に設置するというところをはぐらかしているような気がする。小さなところに学校を持っていくという逆転の発想がないと、解決しないと思う。統合させられた地区は急速に過疎が進むと考える。</p> <p>大きなところを小さいところを吸収するということではないのか。そうすることで、地域の衰退が進むのではないか。</p>		
	30	<p>小学校が当分の間、高郷地区に残ることにはなっていない。学校は地域の核である。農業科、語り部等で地域の方との触れ合いはあるが、学校行事等でもっと生かしてもらえれば、その役割が浸透していくと思う。例えば、学校と地域の運動会を合同でやるということもよい。学校の運動会は半日で、お屋もないのでおじいちゃんやおばあちゃんも見に来ないという寂しいものになっている。可能であれば、市教委の方からプッシュしてもらいたい。</p>		
	31	<p>若者がいなくてどの村も困っている。会北が二中になるような動きが広がってくれば、過疎化に拍車をかけるということになると思うので、反対の頑張りを、踏ん張る方に力を入れていただけたらいい。</p> <p>喜多方もこのままだと会津若松市喜多方区になってしまうんじゃないかと心配している。このまま統合が続いていけば一中、二中、一小、二小しかなくなってしまうのではないかと感じている。村も町もなくなり、人も若者もいなくなるの目に見えているし想像がつく。統合する方に力ではなく、踏ん張る方に力を入れてほしい。5年でも10年でも伸ばす方に力を入れてもらえらると住民としてはありがたい。</p>		
	32	<p>最終的に喜多方地区に持っていかれてしまうと思う。地域から学校がなくなれば、親も住まなくなる。</p>		

項目	No.	意見等の抜粋	市の考え方	修正
地域の振興について	33	<p>学校がなくなっただけの後の地区のあり方についてどのように考えるか。 学校を窮屈にせず、独自性を認めていけばより豊かな教育ができると思う。</p>	<p>学校の再編が行われたとしても、それぞれの地域では、変わらず子どもたちが生活していくことになるため、これまでと同様、各地域の子どもたちに対し、地域の皆様の温かい見守りやご支援をいただきたいと思えます。</p>	なし
	34	<p>地域のことは一体だれが考えていくのか。</p>	<p>地域のことを考える場合、一番大切なのは、自分たちの地域をどうしたいのか、そのためにはどのように行動していったらいいのかということであると考えます。市の自治基本条例の中にあるように、まちづくりの主役は市民で、市民の自主的な参画によって行われるものであると考えます。</p>	
	35	<p>児童生徒数だけでなく、地域振興等についての考えもお聞きしたい。</p>	<p>まちづくり、地域づくりは行政だけでなく、市民が主役として様々なアイデアをご提案いただきながら、共に進めていくことが重要であると考えます。</p>	
	36	<p>教育水準を上げるまちづくり、魅力ある学校づくりをお願いしたい。</p>		
	37	<p>地域は地域の人たちが盛り上げてもらえばいいと思う。</p>		
	38	<p>地域の問題のことを言えば、学校の有無で過疎化が進むという話ではない。市の施策で過疎化が進まないようにすることが大切だと思う。学校がなくなるから過疎化が進むということは、問題が違うと考えるので、市に是非頑張ってもらいたいと思う。</p>		
市の計画との関係について	39	<p>令和3年の教育振興基本計画中間見直し計画では、地域学校協働活動の推進がうたわれており、今回の案は矛盾すると考える。地域が元気になるようにと頑張っているのに、学校についてだけが、地域を越えるということを言っている。総合計画が計画倒れになるのではないか。</p>	<p>教育振興基本計画では、地域学校協働活動に重点的に取り組むとしていますが、ここでのいう地域とは、旧市町村の区域として限定的に捉えているものではありません。また、総合計画においても、地域の特性を生かしたまちづくりに取り組むとしていますが、教育振興基本計画と同様に、地域を旧市町村の区域として限定的に捉えているものではありません。</p>	なし
	40	<p>市の計画では、誰もが住み慣れた地域で、可能な限り継続して生活できる地域づくりと地域コミュニティの重なりが提唱されている。また、地域学校協働活動の推進も謳われている。今回の案は、そのような市の方針と矛盾すると考える。地域のとらえ方を変えるということはいつ決まったのか。</p>	<p>市町村合併以降、新市の一体的な発展が重要であるとし、新市の均衡ある発展と一体感の醸成のため、市全域を見据えた施策を地域の実情に応じて展開してきました。例えば、他の地域に比較して劣る部分については、他の地区のレベルまで引き上げ、また、他の地区より優れる部分については、更に伸ばす取組をしてきました。</p> <p>特定の地域をどうするかといった考え方はなく、合併（統合）のメリットを生かす取組が重要であると考えます。</p> <p>また、まちづくりにおいて特に重要なのは、『自分達の地域は自分達でつくる』という意識であり、その意識がなければ持続性のないものとなってしまいうため、地域の特性を生かした地域における主体的なまちづくりが重要であると考えます。</p>	
	41	<p>郷土について学ぶことは重要である。山都に学校があれば、郷土学習のカリキュラムは山都中心になってしまふ。高郷の郷土に対する意識はどうなっていくのだろうか心配する。市の計画で「郷土を誇り、自己啓発できる子どもの育成」ということが謳われている。学校の場所は重要である。高郷の小中一貫教育学校を進めてほしい。</p>		

項目	No.	意見等の抜粋	市の考え方	修正
人口減少対策等について	42	<p>熱塩も高瀬も空き家を上手く利用して他地区から人が来てもらえるような、人口が増えるような事業を増やして欲しい。地域の人達も、外から来る人を温かく迎えるような地域づくりをしていて欲しいと思う。</p>	<p>地域からの人口流出を食い止め、子育て世代を含む若者の定着を図るためには、教育環境の充実が重要であると考えます。適正規模適正配置の取組の推進により、より魅力ある学校づくりを進め、子供たちによりよい教育環境、教育内容を提供していくことが、子育て世代の定着につながるものと考えています。</p> <p>また、本市では、総合計画や総合戦略により、人口減少対策、地域振興策、子育て環境整備、雇用の確保など、多分野にわたり全庁的に様々な施策を展開しています。</p> <p>これらの施策を有効に活用しながら、市と地域の皆様とが一緒に考え各種取組を進めていくことが重要であると考えます。</p>	なし
	43	<p>塩川小学校の児童生徒数が増加している要因は何か。その増加要因を市全体の施策として繋げることができないのか。</p> <p>子育て施策については、高校生の医療費無償化など思い切った施策を実施しないとだめだと思う。全国的に人口減少の歯止めはかからないが、一朝一夕の施策ではだめだと考える。</p>		
	44	<p>前回、市教委だけでなく、移住対策、就農（有機農業）等総合的に考えていかなければならないので、次の計画はそれらを加味し、市教委の考えだけでなく、いろいろな部署で検討してほしい旨を要望しておいたが、今回の案にはその点について疑問を感じる。</p>		
統合による影響等について	45	<p>地域の住民と保護者の意見が食い違うということが分かった。人間関係がうまくいくかどうかは、統合するかどうかと違うと思う。</p>	<p>統合によってすべての人間関係がうまくいくかということについては、必ずしもそうではありませんが、統合により子ども達が多くの人間と触れ合い、社会性が広がっていくものと考えます。</p>	なし
	46	<p>市の方の考えを委ねてもらわないと困る。統合ありきで考えてもらっては困る。</p> <p>以前、塩川中でいじめの問題が大きくなった事例も聞いている。学校を大きくすること、統合することとがよいとは思わない。</p> <p>高瀬に統合中学校をつくるならば賛成する。</p>		
学校づくりについて	47	<p>地域づくり協議会を行っており、その中で、将来のことを考えていくことは大切であり、地域としてのような支援をしていくことができるのを議論している。しかし現実的にはなかなか難しい。単に既存施設の小規模な改修だけでなく、ハード、ソフトを含め、特徴ある魅力ある学校を作ってほしい。一例であるが、例えば デジタル通信の有効活用で他の地域、国とつながるなどの環境整備を行ってほしい。そうしないと、安定した子供たちの数を確保することは難しいと思う。</p>	<p>ハード面については、既存施設の有効活用を基本にし、ソフト面については、地域が広がることによる教育活動の内容の充実を図ることが必要と考えます。</p> <p>学校づくりにつきましても、「全ての子どもたちの生きる力を育む」ことを基本目標とし、5つの施策目標（「1 確かな学力の育成」「2 豊かな心の育成」「3 健やかな体づくり」「4 一人一人のニーズに応じた教育」「5 学びを支える環境の整備」）のもと取り組んでおり、これら目標にそれぞれの学校が、地域性を加味しながら、具体的な学校をつくりあげていくことが重要であると考えます。</p>	なし
	48	<p>統合することによって市としてどのような学校をつくっていくのかをお聞きたい。</p>		

項目	No.	意見等の抜粋	市の考え方	修正
小中一貫教育学校について	49	<p>小中一貫学校についてはどの程度考えているのか。近隣の会津若松市立河東学園（義務教育学校）について評価を行ったのか。</p> <p>第二次計画では義務教育学校等について検討の余地はあるのか。</p>	<p>山都・高郷地区については、これまで中学校と小学校を統合し小中一貫校とする案を提示しておりますが、今回の案では中学校のみの統合案としております。</p> <p>小中一貫教育学校は、学校の場所が離れていても可能ではありますが、同一敷地において、児童生徒、教員同士の交流ができることが望ましいと考えられることから、第1次実施計画（案）には計上しておりません。</p>	なし
	50	<p>前回の説明会で、三中学区の小中一貫教育学校の導入について質問したが、その際には、導入を考えていない旨の回答があった。今回は、前回提案されていた山都、高郷の小中一貫教育学校の導入について述べられていない。その経緯をお聞きしたい。</p>	<p>第1次実施計画（案）中、適正規模適正配置の実施方法においては、「小中一貫教育学校の新設についても検討する」としており、今後、喜多方地区、塩川地区の統合にあたり検討していくこととなります。</p>	
	51	<p>今回、小中一貫校でなくなった経緯を知りたい。</p>		
	52	<p>会津若松市では大戸小・中、湊小・中が高郷地区と同規模であるので、小中一貫教育学校等の検討をお願いしたい。</p>		
小規模特認校について	53	<p>小規模特認校を導入している上三宮小学校に限らないが、保護者の希望した学校に入学できるなら児童生徒数が都度変わると思うが、市はどのように考えているのか。</p>	<p>上三宮小を小規模特認校としたのは、2年連続入学者が0名で、次年度、1年生と4年生の「飛び複式」学級の編制が予想され、学校運営上の課題や児童に与える影響が懸念されることから、上三宮小学校の今後の在り方について、小中学校適正規模適正配置実施計画とは別に検討を進め、子ども達にとってより望ましい学習環境を整備していくことが必要であるという基本的な考えの下、小規模特認校制度が緊急避難的に導入されました。</p>	なし
	54	<p>上三宮小学校は各地域から応募でき、少しずつ児童数が増えているが、「当面の間、現状維持」の記載に不安が残る。小規模特認校の評価はどのようなものか伺いたい。</p> <p>上三宮小学校の子どもたちが将来どのような形で卒業を迎えるのか。</p>	<p>この上三宮小学校の小規模特認校については毎年度の評価検証を行うこととしており、検証結果によっては統合も検討していく必要があると考えます。</p> <p>また、令和4年度より他学区からの児童も入学しており、その子ども達に配慮し、当分の間は上三宮小学校の小規模特認校制度を継続する必要があると考えます。</p>	
	55	<p>高郷小学校で小規模特認校の導入は検討しているのか。</p>	<p>三宮小学校の小規模特認校制度については限定的に導入したものであるため、他地区での導入は行わないことが適当であると考えます。</p>	
	56	<p>上三宮小学校について、なぜ小規模特認校にしたのか。上三宮小と松山小との統合は検討しなかったのか。旧町村をまたいだ統合案を計画するのなら、なぜ高郷小、中も小規模特認校として指定できないのか。</p>		
	57	<p>高郷小・高郷中を小規模特認校にすることはできるか。</p>		

項目	No.	意見等の抜粋	市の考え方	修正
その他	58	データには、特別支援教育の人数は入っていないが、全ての子どもを受け入れ、特別支援教育についても加味する案にするのであれば、市独自でも考えていく必要がある。	今後も特別支援教育の充実に取り組んでいくことが必要であると考えます。	なし
	59	私は70代であるが、親の立場でこのような会議に出ることが必要だと思う。	できる限り保護者の参加が得られるように工夫をしていくべきと考えます。	
	60	山都・高郷地区でも、保護者は賛成、地域は反対との話を聞く。おそらく他の地域でも同じだと思う。そのような異なった意見を市ではどのように調整していくのか。	P T Aや地域の理解を得られるよう丁寧な説明をしていくことが重要であると考えます。	
	61	財政的負担、人員確保等の課題があると思うが、複式学級には市雇用の教員を必ず配置する等の対策があればよいと思う。	財政的負担や教員不足といった課題があるため困難であると考えます。	
	62	市議会だよりには、小中学校の統廃合に対する陳情というのがあり、早く統合して空いた教室などを町の活性化に生かしたかどうかという意見の陳情に対して、全面反対ということでは不採択となった。市議会の意見とこちらの方々の意見のつながりはないのか。	市民や議会に丁寧に説明し、理解いただけるように努めていく考えです。	
	63	基本的に、第1次実施計画（案）には賛成である。明確な指針があれば分かりやすくなる。例えば、市として複式学級をつくらないなどの指針があればよいのではないか。	第1次実施計画（案）は、児童生徒の減少状況、複式学級の編制状況、保護者や地域住民の意向、施設の老朽化状況等を総合的に勘案しながら策定しております。	
	64	前回、三小、熊倉小、熊倉小が統合して関柴小の校舎を使用する計画案が出されたが、次期実施計画の再編案では、この考え方が継承されるのか、白紙になるのかお聞きしたい。	第1次実施計画の対象とならなかった学校については、次期実施計画の策定に向け、「児童生徒の減少状況」「複式学級の編制状況」「保護者や地域住民の意向」「施設の老朽化状況」を参考に再編案の検討を継続することとしています。	
	65	第2次実施計画の進め方はどのようなのか。		